

What can we do to achieve the SDGs?

氏名:二宮 宏樹

学校名:兵庫県立明石西高等学校

担当教科:外国語

実践教科:総合的な探究の時間

時間数:5時間

対象学年:第1学年

人数:39人

【実施概要】

【1】単元のテーマ・目標（評価の観点を意識して設定）：

JICA関西訪問や国際交流活動など、本校国際人間科の行事をきっかけに、言語や文化の多様性への気づきを促し、その多様さから生じる課題について考察する。この度の授業実践を、多様な意見の受容や他者との協働、新たな価値観への出会いの機会の提供と位置づけ、主体的かつ協働的に学ぶ態度の育成を目指し、2年次の探究活動の礎とすることを志向する。

【2】 単元の評価 規準例	(ア) 知識・技能	言語や文化の違いから生じる問題に気づき、そのことが自分自身の生活とつながっていることを理解している。
	(イ) 思考・判断・表現	言語や文化の違いから生じる問題から解決策を考え、論理的に表現する力を身に付けている。
	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度	自ら進んで課題に向き合い、自他のよさを認めながら、協働して課題を解決しようとしている。
【3】 単元設定の理由	<p>【教材観】言語や文化の違いから人々が快適に安心した生活を送ることを難しくさせてしまうような問題は、日本で生活する我々の周りにも存在する。多文化共生社会の実現を目指すにあたり、そのような問題の存在に気づくだけでなく、具体的にどのような問題が国内外にあるのか、どのような解決策が考えられるのか、高校生である自分たちには何ができるのかについて考え、2年次の探究活動のテーマ設定への準備の機会となる教材である。</p> <p>【生徒観】本校国際人間科の生徒たちは、入学前から英語をはじめとする外国語や異文化への高い関心を持ち、言語習得や異文化との出会いに楽しんで取り組んでいる。今回の授業実践前もその高い関心を維持している（アンケート調査より）一方で、本学科の特色である国際交流に関する活動がCOVID-19感染拡大の影響を受け、軒並み中止・縮小を余儀なくされ、生徒たちの学びの原動力が失われつつあった。多様な文化への関心を刺激し、地球規模で活躍することを志す生徒たちの動機づけとなる機会の提供が求められる。</p> <p>【指導観】普段の授業（特に外国語科の授業）でもディスカッション等複数の生徒での活動に取り組んでおり、他者との協働になじみのある生徒たちだが、今回の実践を通して、改めて他者から新たな学びが得られるとともに、自分自身も他者に影響を与えている存在なのだと感じさせ、自己肯定感の向上につなげたい。また、言語や文化の違いから生じる問題について考えさせるとともに、JICA 関西訪問によって学校内だけでは学べ</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 児童/生徒観 ✓ 教材観 ✓ 指導観 ✓ 設定時に想定された児童・生徒の変容 		

ない海外の事例についても触れることで、生徒の国際的な課題への高い関心の維持・向上につなげたい。

【設定時に想定された生徒の変容】

今回の授業実践のみで生徒たちの意識が大きく変容することは想定されず、普段の授業や日頃の学校生活、本学科の特色ある数々の取り組みなど様々な要因の影響を受けて生徒たちの学びは促されていく。しかしながら、本実践では普段の授業では考えることのない言語や文化をテーマとし、その違いから生じる問題への意識づけや他者との協働、ディスカッションでの表現力などにおける成長が期待される。

【4】展開計画（全5時間）

※全体の総時間数や「本時」の記入場所は適宜変更して下さい。

※活動・内容の部分は具体的に記載下さい。適宜写真を添付下さい。

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1 本時	Discussion 1 (JICA 関西 訪問事前学習①) ●言語や文化の違いから生 じる問題の存在に気づく ●1つの題材から多様な見 方ができることに気づき、 多様な価値観を受容する態 度を養う	◆外国語で書かれた2種類の薬品(頭痛薬と 農薬)の画像を比較し、頭が痛い時にはどち らを飲めばよいかを考える ◆「日本語や英語が通じない地で生活しなけ ればならないとしたら、どのようなことに困 るだろうか」というテーマで意見交換し、そ の解決策を考える	・PPT スライド ・ワークシート ・iPad (ロイロノー ト)
2	Discussion 2 (JICA 関西 訪問事前学習②) ●ブラジルについて情報収 集する ●限られた時間内で自分の 調べてきたことと意見を的 確に伝える表現力を培う	◆5名のグループに分かれ、JICA 関西訪問に 際して話を伺う講師の方がかつて派遣さ れていた国であるブラジルに関する情報 (政治、経済、観光、移民、教育など)つ いて各生徒にテーマが与えられ、事前にそ の情報を集めておく ◆各生徒がグループ内で調べてきた情報や 意見を伝えるとともに、他の生徒はその発 表に関して自由に質問をしながら理解を 深め、疑問点は JICA 関西訪問時に解決す る	・PPT スライド ・ワークシート ・iPad (ロイロノー ト) ・生徒が事前に調べ てきてきたブラジ ルについての情報
3	JICA 関西訪問 ●JICA の活動内容を知る ●開発途上国の課題につい て考える ●国内外における課題の解 決のために自分たちができ	◆JICA の取り組みや SDGs について学ぶ ◆マラウイ・ブラジルへ派遣されていた方々 のお話を聞いたり、それらの国々に関する 解決すべき課題についての質問をしたり しながら、開発途上国における課題につ いての理解を深める	・これまでに使用し てきたワークシー ト ・JICA 関西が用意し たワークシート

	ることを考える	◆JICA 海外協力隊の取り組みについて学び、自分たちができることについて考える	
4	Discussion 3 (JICA 関西訪問事後学習) ●マラウイやブラジルなどの開発途上国における諸問題に気づき、その中には自分自身の生活とつながっているものがあることを理解する	◆JICA 関西訪問時に各自が考えた、マラウイにおける課題を解決するためのプロジェクト案をグループで共有する ◆JICA 関西訪問を終えて、新たな疑問やこれから考えていきたいこと、身の回りにある言語や文化の違いから生じる解決すべき問題について考える	・ JICA 関西訪問時に使用したワークシート ・ iPad (ロイロノート)
5	●日本の大学で学ぶ留学生との交流を通じて、新たな視点から	◆日本語 (and/or 英語) でお互いの国についての情報を共有する ◆生徒たちが海外で生活する際や、留学生が日本で生活する際に困ることを想像し、その原因や解決策について考える	・ iPad (テレビ会議)

【5】本時の展開

※過程の網掛け部分は適宜変更下さい。

※詳細に記載ください。

過程時間	学習活動	指導上の留意点 (支援)	資料 (教材)
導入 (10分)	1. 単元の目標とスケジュールを共有する 2. ロイロノートの使用方法の確認 及び JICA の取り組みについて知る	○この単元を通じて身につけて欲しい能力について意識させ、主体的に活動に取り組む雰囲気づくりを促す ○今後の活動のために、ロイロノートで Web 検索をする方法や意見をカードに書いて提出する方法を確認する ○JICA に関する情報は、JICA 関西訪問時に詳しく学ぶため、ここでは詳細な情報の共有はせず、生徒の動機づけのために簡単に HP を閲覧するだけにとどめる	・ PPT スライド ・ ワークシート ・ iPad (ロイロノート) ・ JICA の HP から「JICA at a Glance 一目でわかる JICA」のページ

<p>展開 (30分)</p>	<p>3. Discussion①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2つの薬瓶の画像から正しく頭痛薬を選ぶために必要なことは何かを考える ・ 個人で考えたことをロイロノートに記録・提出し、グループで共有する ・ ロイロノートで提出した意見のカードを他の生徒と共有しながら、理由や根拠についても考える <p>4. Discussion②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「日本語や英語が通じない地で生活しなければならぬとしたら、どのようなことに困るだろうか」というテーマで意見交換し、その解決策を考える 	<p>○頭痛薬を選ぶために必要な能力（英語や化学に関する知識など）だけでなく、状況や場面（購入時や周囲の人々など）に関する視点にも話が広がるように、生徒の多様な意見を肯定的に評価することで、多角的に物事を見る姿勢を促す</p> <p>○薬瓶の画像はあえてプロジェクターでスクリーンに投影し、見やすい生徒と見えにくい生徒が生じる環境を作ること、情報へのアクセスのしやすさの差も要因の1つだと気づかせる</p> <p>○Discussion①で考えたことを一般化して言語や文化の違いから生じる問題について考えさせるため、Discussion①で共有した意見を示しながら、生徒間のやりとりを促す</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2つの薬瓶（頭痛薬と農薬）の画像（瓶のラベルは英語で書かれており、専門的な用語も使用されている）
<p>まとめ (10分)</p>	<p>5. Feedback</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ この授業の目標をどのくらい達成できたかを振り返る ・ 考えたこと、これからも考えたいこと、友だちから学んだことなどを自由記述形式で記録する <p>6. 今後のスケジュールの確認</p>	<p>○今後の学びに活かせるよう、些細な気づきでも記録に残すように伝える</p> <p>○生徒からの多様な意見、意見の伝え方など、この授業での生徒たちの評価すべき姿勢を具体的に伝え、生徒たちの自己肯定感の向上につなげる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシート

【授業実践の様子】

①授業風景 1 (事前学習)



②授業風景 2 (事後学習)



③JICA 関西訪問



【6】本時の振り返り

本時では2つのテーマの Discussion を中心に行ったが、グループ内での Discussion が想定以上に盛り上がり、クラス全体の共有に十分な時間を割くことができなかった。展開1では、言語や文化の違いが生命に関わるという具体的な事例を扱い、生徒たちの多角的に物事を見る姿勢を心がけるきっかけにすることができた。展開2では、クラス全体での共有や教師からのコメントができなかったが、JICA 関西訪問後の授業で改めて取り組んだ。全体を通して、生徒たちの前向きに取り組む姿勢が見られ、一人ひとりから積極的な自己表現がなされることで、常にいきいきとした雰囲気の中で授業を進めることができた。本時の授業は2年次に取り組む課題研究に向けた導入の一つと位置づけられ、生徒たちの身の回りの出来事における問題に意識を向ける機会の提供ができたと評価できるが、言語だけでなく、環境や宗教など別のテーマの事例を扱うなど、今後も教材研究を続けて授業改善に努めたい。

【7】単元を通した児童生徒の反応/変化

単元を通して、生徒の海外の文化への強い関心が感じられた。生徒のコメントにも「以前から自分は世界の問題に理解があると思っていた」というコメントは散見されたが、「実際は知らないことばかりだということに気づくことができた」など、新たな気づきもよく見られたことは大きな収穫であった。以下に生徒の実際のコメントやアンケート調査の結果の一部を記載する。

【単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲があれば記載下さい】

(ワークシートより 生徒の感想)

- ・自分で調べるだけでなく、友だちから話を聞くことで、新しいことをたくさん学べた。
- ・ディスカッションで、普段あまり考えたことのないことを考えられ、自分にもできることについても考えた。
- ・限られた時間で自分の言葉で説明することが難しいと感じた。自分の言葉で自分の意見をうまく表現できるようになりたい。
- ・友だちの発表から、うまく人に伝える方法を学んだ。
- ・自分の意見や考えを言葉にして相手に伝える力がついてきたと感じる。

(授業アンケートより)

- ・友だちと Discussion することで、自分だけでは得られない学びがあると実感した
→ よくあてはまる：95% まああてはまる：5%
- ・友だちと Discussion する中で、自分と違う考えがあっても、それを受け入れることや、互いの多様な考え方を尊重することの大切さを実感した
→ よくあてはまる：97% まああてはまる：3%

【授業を通じた途上国・異文化・多文化共生等への意識の変容について記載下さい】

(授業アンケートより一部抜粋)

- ・(授業前) 私たちの身の回りにある、言語や文化の違いから生じる問題について考えたことがあるか
↓ よくあてはまる+まああてはまる：68% あまりあてはまらない：32%

(授業後) 言語や文化の違いから生じる問題についてよく考えるようになった

よくあてはまる+まああてはまる：95% 以前と同じくらい：5%

- ・(授業前) 言語や文化の違いから生じる問題の解決策について考えることがあるか

↓ よくあてはまる+まああてはまる：60% あまり/全くあてはまらない：40%

(授業後) 以前に比べて、言語や文化の違いから生じる問題を解決するために

何らかのアクションを起こそうと考えるようになった

よくあてはまる+まああてはまる：95% 以前と同じくらい：5%

(ワークシートより 授業後の生徒のコメント)

- ・世界にはまだまだ知らないことだらけだと感じた。もっと世界に目を向けて知識を得ていきたい。
- ・言語や文化の違いが、思っているよりも生活に影響があることに気づいた。外国の問題であっても、自分事として考えていきたい。
- ・外国と日本の文化や言葉、ライフスタイルの違いや問題について考え、自分たちとのつながりを感じるようになった。
- ・JICA 訪問で知ったマラウイやブラジルに限らず、世界のいろんな国の文化をたくさん知りたいし、私からできるようなことは率先してやりたい。当たり前が当たり前でないことがよくわかったし、私の生活も外国の生活も大切にしたい。
- ・今まで私は世界の問題や他国の文化に十分理解があると思っていたが、全然知らないことばかりで、私たちの将来に関わる問題があることを知った。その問題への対策について考え、それを実行するのは私たちだと気づくこともできた。

【8】自己評価

1. 苦労した点	今回の私自身の研修で学ばせていただいたことを授業実践に活かすことに苦労した。今回の授業実践は私が普段担当する学年ではないクラスで行ったため、十分な時間が確保できず、生徒たちには事例をたくさん提示することができなかったことが大きな反省点である。COVID-19 感染拡大に伴う緊急事態宣言発令により学校行事などの教育活動が計画通りに進まない中での授業計画・実践だったこともあるが、十分な計画を立てるべきだったと反省する。しかしながら、毎年参加する JICA 関西訪問が今年度も実施できたおかげで、生徒に具体的な事例から世界の問題について考えるきっかけを与えることができた。私が得た知識をより多く生徒たちに直接伝え、生徒たち自身が考える機会を提供できるよう改善していきたい。
2. 改善点	2 学期の授業実践では十分な事例を授業では提示できなかったが、3 学期以降にもオンラインでの国際交流などの活動が予定されているので、それらをうまく繋げながら、いろんな国・地域の事情について触れさせて、2 年次の探究活動に移行したい。また、今回は総合的な探究の時間の中での実施だったが、外国語科の授業にも取り入れられるよう、英語での教材作成にも取り組んでいきたい。

3. 成果が出た点	<p>例年本校の生徒は1年次にJICA 関西を訪問しており、そこでの学びは生徒たちにとって楽しいイベントの一つである。一方で、そこで得た経験は別の教育活動と目に見える形で繋げる機会を設定することが難しかった。今回はJICA 関西訪問だけでなく本校の複数の国際交流活動を関連づけることで、生徒たちの学びをより豊かにする可能性を見出すことができた。今回の授業実践は私が普段授業を担当しない学年の生徒を対象に行ったので少し不安があったが、HR 担任の教員にも入ってもらいながら授業を行い、HR 担任の教員も普段なかなか見ることができないような生徒の活発な面を引き出すことができたことは成果の一つである。</p>
4. 備考（授業者による自由記述）	<p>海外での研修や留学生との交流などの国際交流活動が盛んな本校で勤務してきたが、「直に」「肌で感じる」「直接的な」経験を通じて得られる学びに固執してしまっていた自分に気づかされた。国内外を自由に移動することが難しい現在、以前のような国際交流活動を通じての学びができないことを言い訳に、生徒たちを目の前にしながら何もしないことは許されない。今回の研修では、国内にいながらも学べる内容も手段も無数にあることに気づくことができた。得られた知見は、本報告書に記載していない別の教科や学年での授業にも取り入れられつつある。今後もどのような場面においても、SDGs や多文化共生社会の実現を志向する視点をもって、教材研究に励み、これから出会う生徒に還元していきたい。</p>

参考資料：

- ・『JICA at a Glance 一目でわかる JICA』（JICA）
https://www.jica.go.jp/about/at_a_glance/index.html
- ・『読解力と表現力を高める SDGs 英語長文』竹下厚志（三省堂）
- ・『国際理解教育実践資料集』（JICA 地球ひろば）
- ・『私たちが目指す世界』（Save the Children 他）
- ・『earth music&ecology2019 年春新 CM「エシカルへ」篇』（ストライプインターナショナル）
<https://www.stripe-intl.com/news/2019/0227-01/>
- ・『The 2 Euro T-Shirt - A Social Experiment』（Fashion Revolution）
https://youtu.be/KfANs2y_frk